

サマンバヤ通信

サマンバヤの会 THE GROUP OF SAMANWAY

インドの子どもたちの教育のために
for Education to Every Child

CONTENTS

2007年上期送金分の領収書が送られてきました / 「マハバーラト」が出版されました / 舌で感じるインド / 「スゴイぞ! インディア / インドで話そう / ニュースの窓から / インド全州の旅~オリッサ州~ / 大橋田彦 蘇録第2回



インド、ハリヤーナ州にあるドレラ村の女性たち (2006.3)

2007年上期送金分の領収書が送られてきました

前号でお伝えした2007年4月9日にBank of INDIA東京支店発行の送金小切手により送金したものの領収書が送られてきました。領収書とともにドワルコ・ジーから確かに受領した旨の手紙が添えられていました。

サマンバヤ・アシュラムに対して30名分(昨年上期実績マイナス10名)の養育費で、現在登録されている里親会員25名分プラス5名分プラスアルファの寄付で送金額 = Rs.80,000 - (ルピー) 円換算232,000円。当日レートは1ルピー = 2.90円でした。

お金はサマンバヤ・アシュラムで養育費、特に寄宿生活を送っている子どもたちの生活費や教育費、あるいは先生たちの給料に当てられます。現在、バグハとブダガヤの子どもたちを合わせると95人の子どもたちが寄宿生活を送っているとのことでした。

ここ2年間は雨季に雨が少なく農業に与える影響は大きいようです。このようなときこそサマンバヤ・アシュラムが地域に与える役割が重要になってきます。次号で詳細を紹介します。

「マハバーラト」が出版されました

池田 運(いけだ はこぶ)氏訳



マハバーラト第2巻(全4巻) 定価5,000円(税別)

2007年4月15日 発行

訳者 池田 運

発行 株式会社講談社出版サービスセンター

世界最大の長編叙事詩「マハバーラト」全4巻のうちの第2巻(第1巻は2006年6月発行)が出版されました。第1巻・第2巻ともに千頁を超える大作ですが、インドの人たちの精神の根底がここにあるといわれているインドの原点の神話の世界です。本書では「シュリマド・バガワッドギータ」が含まれていることからギータ誕生の背景が明らかになります。楽しい挿絵も入っていますので、大作のわりには読みやすい本です。ただし、多くの登場人物の名前を覚えるのはたいへんかもしれません。

池田さんは、サマンバヤ・アシュラムがブダガヤで活動を始めたころから運動に参加、ドワルコ・スンドラニ氏とは兄弟のように寝食行動をともにされ、ときのインドを動かしていた多くの活動家、政治家と親交をもつという経験の持ち主。優れた語学力を翻訳に生かし、数々の大作をヒンディー語から直接日本語に翻訳するという比類なき分野を確立した人物です。

購入をご希望の方はサマンバヤの会までご連絡下さい。

舌で感じるインド

<カサダ> 南インドのデザート

小宮輝子(KOMIYA Teruko)

南インドのレストランに必ずと言っていいほどあるのが、『カサダ』というアイスクリーム。1つ20Rs(ルピー)であり、インドの物価水準から見ると決して安くはない値段ではあるが、南インドではかなりポピュラーなアイスらしい。なんとと言っても初めにびっくりするのは見た目。色合いは着色料の塊といたくなる、赤白緑の艶やかな色々……。しかしながら、半円の形に虹のようで、女の子には感動を呼ぶ要素は大有りである。そしてなんととってもテイストが最高!!チョコとイチゴの味は日本と似た部分ではあるが、このアイスの主役はなんととっても白と緑の部分。インド独特のスコッチとよばれるバニラアイスにナッツがたっぷり入っている部分こそインドの味である。これが何ともいえない辛いカレーの後にカサダの甘さに癒される。そんな駆け引きにもやられてしまう。すごいよインド!!



「スゴイぞ!」インドア

当会代表 寺田文男(TERADA Fumio)

印度で出会った「すごい」。今回は路(みち)。ブダガヤ(ブダガヤ、ボードガヤー、ブッタ・ガヤー)は、デリーとコルカタ(カルカッタ)の間のコルカタから3分の1程の場所に位置します。

デリーまたはコルカタから鉄道で行くのが一般的ですが、デリーから州都パトナに空路を利用したり、バンコクからブダガヤ空港に飛んだりするという手もあります。

インド国内を移動する場合、飛行機は一部のお金持ちが利用しますが、よほどのお金持ちで無い限り列車が圧

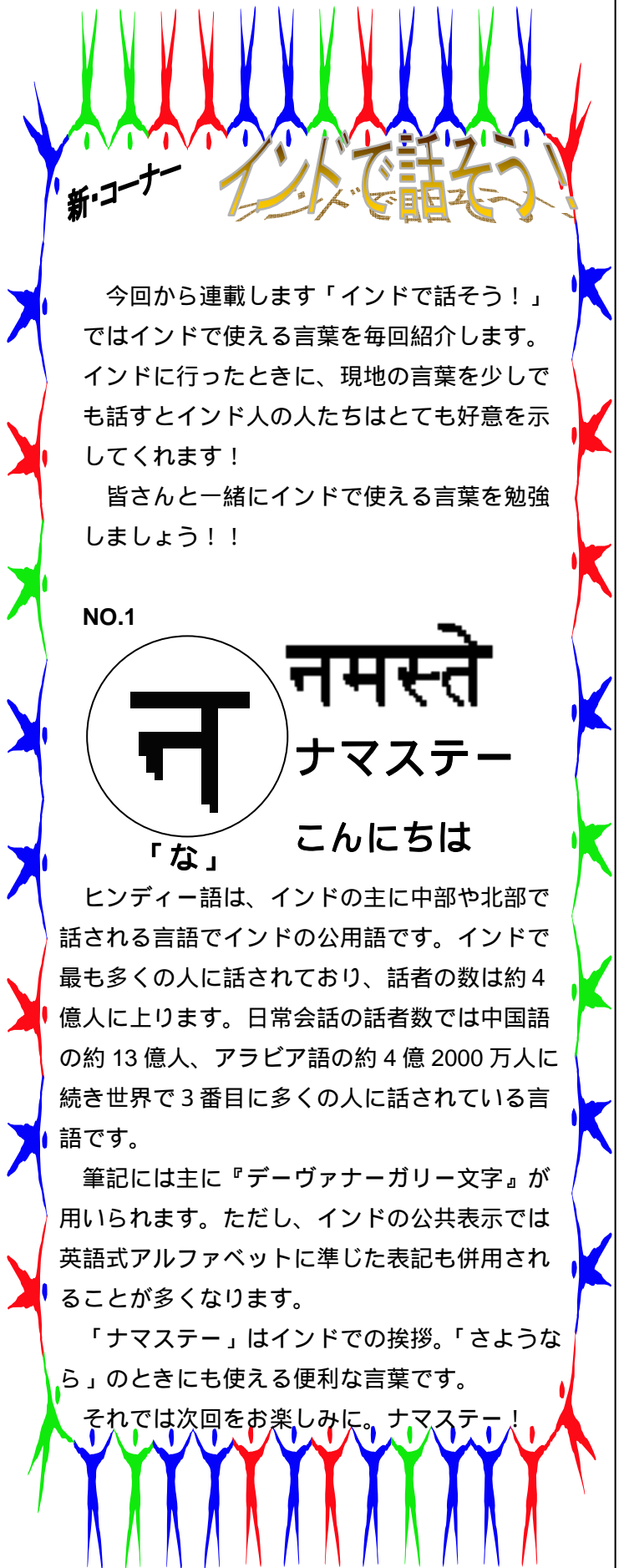
倒的ですが、このよほどのお金持ちという人もそこそ
いて、国内線の飛行機はどこも混んでいるようです。列
車も所要時間の短いもの・寝台・座席のクラスで値段が
違いますが、等級があがると値段も当然上がり生活水準
の高い客層が利用するので、等級の高い車両ほどコソ泥
の乗る確率も低いということになります。

私は、デリーから或いはコルカタから特急列車を利用
していましたが、ローカル線乗り継いで行くことも可
能かと思えます。これについてはかなり面白い試みでし
ょうが、やってみようとは思いません。ただ、このロー
カル線を巧みに乗りこなすことができると、メリットも
あります。「インドの鉄道はよく遅れる」といいますが、
(確かに遅れることが多い・これは個人の感想です)一
度遅れだすとその遅れを取り返すことは無いようで、特
急といえども遅れた列車はダイヤから切り捨てられ、ダ
イヤ通り運行するローカル線に線路をゆずることにな
っているようなのです。このルールが私の予想通りなら、
目的地までの距離にもよるのですが特急が遅れた場合、
うまくローカル線に乗り換えると早く目的地に着くこ
とになります。ただし、遅れた列車はダイヤから切り捨
てられるというのが事実である場合という条件付です
ので、試される場合は個人の責任にて行動してください。

ブダガヤの南 20km程にデリー、コルカタを結ぶ幹
線道路 NH2(2号線とも呼ぶのでしょうか)がありま
す。畑や荒地を突き進む道路は、万里の長城よろしく(こ
れは少し大げさですが)幅 20m, 高さ 4mほどの堤を
築いたような 1段高いところを走ります。物資を運ぶト
ラック(パブリックキャリアと呼んでいたと思うが)が
引きも切らずに走るさまは数十年来変わることが無い
ようですが、とりわけ道路の脇にパンクや故障で止まっ
ていたり、さらには道路から外れて横転していたり、は
たまた炎上したトラックがしばしば目に入ってくるこ
とさえあり、そんな場面に会うと、幹線道路は過酷な運
転を強いられる仕事の舞台のようだと思わされます。

アジアハイウェイの一部でもある 2号線は状態の悪
いアスファルト道路から十分な車線を確保されたコン
クリート道路に生まれ変わろうと 2006年初頭現在、工
事中でした。カーブを減らし、橋を架け替え、中央分離
帯を設けた分厚いコンクリートの道。かつては未舗装砂
利道、そして、上下で 1車線分だけのアスファルト舗装、
さらに上下で 2車線分のアスファルト舗装に拡張を経
て、いよいよ鉄筋コンクリートの道へ進化しています。

コルカタからパキスタン国境を結ぶと聞きました。道が
整備され、物流に変化が起き、交通事故の質も変わって
いくのかもしれませんが。



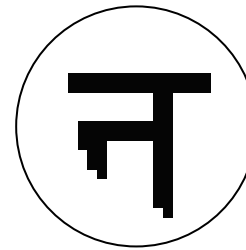
新・コーナー

インドで話そう!

今回から連載します「インドで話そう！」
ではインドで使える言葉を毎回紹介します。
インドに行ったときに、現地の言葉を少しで
も話すとインド人の人たちはとても好意を示
してくれます!

皆さんと一緒にインドで使える言葉を勉強
しましょう!!

NO.1



「な」

नमस्ते
ナマステー
こんにちは

ヒンディー語は、インドの主に中部や北部で
話される言語でインドの公用語です。インドで
最も多くの人に話されており、話者の数は約 4
億人に上ります。日常会話の話者数では中国語
の約 13 億人、アラビア語の約 4 億 2000 万人に
続き世界で 3 番目に多くの人に話されている言
語です。

筆記には主に『デーヴァナーガリー文字』が
用いられます。ただし、インドの公共表示では
英語式アルファベットに準じた表記も併用され
ることが多くなります。

「ナマステー」はインドでの挨拶。「さようなら」
のときにも使える便利な言葉です。

それでは次回をお楽しみに。ナマステー!

ニュースの窓から

小林美晴 (KOBAYASHI Miharu)

インドで7歳の女の子が日本の高校にあたる11年生への進級試験に合格。最年少記録を更新した。インドの教育制度では順調に進級すればあと2年で大学に入学できるそうだ。

この女の子は裕福な家庭に生まれ、一流の教育を小さなころから受けていたわけではなく、両親は日雇い労働で生計を立てる貧しい家庭に生まれた。しかも、この女の子は昨年9年生になったが、それまでは自宅で勉強をしていたそう。さすが“0”を発見した国！頭のつくりが違うのだろうか。それに、この女の子の将来の夢は貧しい人のための医者になりたい、と言っているところがとてもステキだ。

テストの点数がいいことがすべてではないと思うが、学力の低下が問題視されている日本の学生で、将来の担い手でもある私たちももっとがんばらねば、と思わせてくれる記事だった。

インド全州の旅～オリッサ州～

大畑朝義 (OHATA Asayoshi)



今回はインド南東部にありベンガル湾に面しているオリッサ州を紹介します。州都はブバネーシュワル。そして、人口は約3,670万人(2001年)。公用語はオリヤー語で、話者数は3,100万人いて、西ベンガル州にも話者が相当数います。余談ですが、最近ニュースで取り上げられた65キロを7時間で走ったインド人の4歳半の女の子(通称マラソンキッド)は、次にブバネーシュワルからコルカタまでの約500キロを歩こうとしたが、発育障害を起こす可能性があるとして止められてしまいました。

さて、オリッサ州は1912年にビハール州と合併しましたが1936年に再び単独の州となり、山岳地帯にあつたいくつかの藩王国と合併して現在へと至っています。この州は、インド四大聖地のひとつジャガンナート寺院や日本と結んでインド独立を実現しようとしたインド



オリッサ州の海辺の街並

インドの6日付ヒンズー紙などによると、同国北部ウッタラプラデシュ州ラクノーで7歳女兒が日本の高校にあたる11年生への進級試験に合格、最年少記録を更新した。インドの教育制度では順調に進級すればあと2年で大学に入学できる。これまでの記録は9歳だった。

女兒はスシマ・バルマちゃん。両親が日雇い労働で生計を立てる貧しい家庭に生まれた。学費は免除されるという。

将来は医師になり、貧困層向けの病院を運営したいと話している。PTI通信の報道では、スシマちゃんは昨年、9年生になったが、それ以前は家で勉強していた。

(共同)

における民族的英雄スバス・チャンドラ・ボースが出身者としていことが有名ですが、何といても文字がかわいいう公用語オリヤー語の文字は一度皆さんに紹介したいと思います。知っていても損はしないと思います。オリヤー語を表記するオリヤー文字はほとんどの字が丸っこいのが特徴的です。

また、オリヤー語には13世紀までさかのぼる豊かな文学遺産があります。14世紀に生き有名なヒンドゥー教の僧であったサララ・ダサはマハーバーラタをオリヤー語に翻訳しました。この言語は、前述した池田 運氏が日本語に翻訳しているマハーバーラタ、ラーマヤナのような古典サンスクリットテキストをオリヤー語に翻訳プロセスを通してサンスクリットからの翻訳方法を初めて標準化しました。

そんな見た目もかわいくて、歴史的にも大きな意味のあるオリヤー語をこれからも皆さん覚えていてください。

2007年サマンバヤの会 新春特別公開企画から

大橋正明 講話録 第2回

サマンバヤ通信編集部

本講話録は去る1月27日(土)サマンバヤの会の新春特別企画の際、当会の副代表で恵泉女学園大学教授の大橋正明がインドのNGO活動の現状に関して話した内容のダイジェストである。前号の通信79号の掲載の引き続き残りの部分を掲載する。これはあくまで速報的、概要的役割を果たしているため、文章に関する責任は全て編集部であり、大橋正明が責任を持って校正したものではないということをご承諾願いたい。いずれ、大橋の目も通してサマンバヤの会のブックレットとしてまとめるつもりではあるが、今回の通信ではその概要を掲載していく。

インドのNGOの話から日本の国際協力の現状や、その規模、課題についても触れられており、我々にとって大いに刺激になるものである。続編にもぜひご期待願いたい。

【インドにおける貧困層】

インドにいる貧しい人々がどういう人たちかを簡単に整理しておきましょう。皆さんが行ったアシュラム(サマンバヤ・アシュラム)は主に指定カーストの人たちを対象としています。英語でいう『Scheduled Caste』。これは憲法にそう書かれています。Scheduledというのは『計画された』という意味。憲法に書かれて計画されている人たちという意味で、現地では『SC』と言っています。優遇措置の対象となる人たちです。人口の約16%に当たり1.7億人くらいです。『Untouchable』というふうにも呼ばれていますが、この呼び名は法律的には使ってはいけません。これが『SC』というカーストと一致していません。『ハリジャン』というのは、ガンディーが名付けたものです。『ハリ』は神、『ジャン』は人。『神の子』という意味です。アシュラムではガンディーの教えを受けているから抵抗がありませんが、マハラシュトラ州、ボンベイ周辺では抵抗があるのです。そこでは主に『ダリット』=(抑圧されている)という呼び名を使っています。みなさんも「奥さん」「だんなさま」とか「連れ合い」などの呼び名を使いたいとかか、どういう言葉で呼ばれたいとかは人それぞれだと思います。



オリッサ州の海岸

.....
 ~ サマンバヤの会ブログのご案内 ~

ブログアドレスはこちら

<http://www.ratio.co.jp/blog/samanway>

いつでもお気軽にご覧ください!

通信への情報提供も大歓迎です。

あて先はこちら

good_morning_and_thanks@yahoo.co.jp 大畑までお送り

ください。原稿に採用された方にはサマンバヤ通信をプレゼントします。



不可触民に対する優遇措置をつくったのは、インド初代の法務大臣で憲法をつくったアンベードカル。この人はいわゆる不可触民出身で、とても頭の良い人でした。藩の王様が彼をイギリスに送って学位を取らせたのです。ガンディーはまず「独立してから不可触民制をなくしたい」としましたが、アンベードカルは「差別がなくなると独立は意味がない」と主張して反対。ガンディーは断食してまで独立を優先させました。私は権力に対してではなく、自分の意見を通すために断食するのは『暴力』だと言えると思います。ガンディーは、カースト制そのものは否定しませんでした。ただ、彼は不可触民性(差別)を廃止しろと言っています。ただ、不可触民制の廃止よりは独立が優先だと主張します。

しかし、アンベードカルたちはガンディー主義のやり方では自分たちは救われぬとして最終的にはヒンドゥー教を捨てて不可触民のなかの一部(数百万人)の人たちと仏教徒(ブッディスト)に改宗したのです。だから、『ST』、『SC』、『ハリジャン』と呼ばれる人たちとネオブディストとは動向が同じだと言えます。STはScheduled Tribe。Tribeというのは部族というより民族かもしれません。ビハール州では非常に少ないのですが、隣のチャッティースガル州とジャールカンド州にはSTの人たちが多くいます。

【階級的な貧困】

今までの話は階層的な問題ですが、もうひとつには階級的な問題があります。経済的な立場の問題があるのです。たとえば、『土地なし農民』という人たちがいます。農村では土地をもっていない人たちが一番貧しいのですが、どのくらいいるかという割合が、主に

は農業労働者という数字で大体代行できます。これが26.3%。別の統計では、農村の72%以下が1ヘクタール以下の保有とされています。日本の農家の1戸あたりの平均耕作面積は1ヘクタールですから、それ以下ということは貧しいと言えると考えられます。インドでは1ヘクタール持っていると言えませんが、インドでは1ヘクタール以下の農民が70%で、土地なしの人たちが3割。それから、都市のスラムや路上で暮らす人々も貧しいですね。たとえばボンベイではスラム人口が70%に達するだろうと言われています。スラムの人たちはさっき言った『SC』、『ST』や土地なしの人たち、もう1つ注意すべき階層であるイスラム教徒、それからさっき言った女性たちで構成されます。また、州ごとの格差があります。貧しい州というのもおさえておくといいかもしれません。州によってすごく差があるのです。

たとえば、州内での差は無視して言うと、デリーの1人当たりのGDPを100とした場合にビハール州のそれは13しかありません。7倍の差があるのです。私たちが愛してやまないビハール州はこのような州で、そこでサマンバヤ・アシュラムは活動しているのです。何となくつかめたでしょうか。

【サマンバヤ・アシュラムについて】

それではサマンバヤ・アシュラムについて話します。ガンディー主義のカースト制に対する社会運動がサルボーダヤ運動ですが、サマンバヤ・アシュラムを理解するにはブーダーン運動を理解しないとはいけません。サルボーダヤ運動は特に不可触民のことを考えていましたが、ブーは土地、ダーンは寄付をするということでした。



ガンディーの一番弟子の1人がヴィノーバーとナーラーヤンですが、ナーラーヤンはビハール集の出身です。したがってビハールではナーラーヤンがすごく愛されています。ヴィノーバーはビハール州の出身ではありません。また、ドワルコ・ジーはパキスタンの出身です。ドワルコ・ジーはヴィノーバーの15番目の弟子と言われていますが、ナーラーヤンの弟子ではないです。これがサマンバヤ・アシュラムがうまく機能していない原因のひとつになっています。思想的対立、人脈の違いが影響していると考えられるのです。

さて、ヴィノーバーが始めた運動が『ブーダーン運動』です。中国では毛沢東が共産党を作り、中国を解放して人民中国をつくりあげましたが、インドはそうはいきませんでした。Congress (国民会議派) が独立運動を主導したのですが、農民への土地の分配がうまくいきませんでした。豊かな人たちと貧しい人たちが分けられていました。

インドにおける共産党はインドの独立前後にできて、貧しい人たちの生活をよくしようとして、貧しい人たちに土地を分ける運動をします。そのうちいくつかの運動が暴力的になってきて、土地占拠運動が起きました。しかし、暴力を使うことに対してガンディアンたちは黙っていられなかったため、土地を寄付して貧しい人に分けようという運動が起きました。これがブーダーン運動でヴィノーバーが指導したのです。

ビハールが歴史的に特に貧しいことはガンディアンたちにも知られていたため、この運動はビハールで特に広まりました。ブーダーン運動自身は必ずしもうまくいかなかったというのが私の評価です。この運動によってインド全体で5%くらいの土地を移動させたただけだったからです。



ただし、政府が土地を買い上げないでやった運動としてはよくやったと思われます。土地を寄付したからといってお金をもらえるわけではなかったのです。普通は政府が土地を買い上げて分け与えるという形を取るのですが、ブーダーン運動はそうではなかったのです。

この運動によってビハール州では全国平均より多い、全耕地面積の約11%、が移動しました。この土地は本来どの部分の人たちに分け与えられなければならないかということ、SCとST(貧しくて土地をもっていない人たち)だと考えられます。

(以下次号へ)

anvay Ashram Bodh-Gaya
Dist. GAYA BIHAR

Receipt No.- 910 Date. 20.4.07

Donations given of the Ashram are exempted from tax U/s 80 G of the income tax act as certified by the income tax officer ward B Gaya.

vide his letter no dated

Mr./Mrs. Fumio Terada
बाबत 2615-3 Ogami, Hattogawa
Onishi, Chouei-gum, Chiba
299-4423 Japan
मो Rupees Eighty thousand only

और उसे -- 7/c ... खाते में जमा किया।
Bank Draft No. 302779
dated 9.4.07 on Bank
of India, Bodhgaya

₹ 80,000 = 00

Accountant 20/4/07 Dr. Ko Suntra
Managing Trustee

サマンバヤ・アシュラムから送られてきた領収書です。毎回、送金するたびにこのような領収書とお礼の手紙が来ます、また、不定期ですが、「ニュース・ブリテン」という報告書のようなニュースが送付されてきます。

